

日本脳炎1期・2期

日本脳炎ワクチン（乾燥細胞培養日本脳炎ワクチン）

☆不活化ワクチンです。

【1期】 **対象年齢** 標準的接種開始時期：3歳～7歳6か月の前日まで （定期接種としては、生後6か月から接種可能）

接種回数 初回2回＋追加1回の計3回

接種間隔 6日～28日の間隔をあけて初回2回接種後、6か月以上（標準的にはおおむね1年）あけて追加1回
（万一間隔があいてしまった場合は、接種医にご相談ください。）

【2期】 **対象年齢** 9歳～13歳（標準的接種期間：9歳から10歳に達するまで）

接種回数 1回

★2期の接種券は9歳の誕生月の前月に郵送します。

《1期の接種（計3回）がお済みでない方へ》

平成19年4月2日～平成21年10月1日に生まれた方で、1期（計3回）がお済みでない方は、特例（平成17年の積極的勧奨の差し控えにより接種を受けられなかった方への接種機会の確保）の対象者となります。9歳以降に接種券を再発行できますので、健康課までお問い合わせください。

日本脳炎とは？

日本脳炎ウイルスの感染で起こります。ヒトから直接でなくブタなどの体内で増えたウイルスが蚊によって媒介され、感染します。7～10日の潜伏期間の後、高熱、頭痛、嘔吐、意識障害、けいれんなどの症状を示す急性脳炎になります。ヒトからヒトへの感染はありません。

流行は西日本地域が中心ですが、ウイルスは北海道など一部を除く日本全体に分布しています。飼育されるブタによる日本脳炎の流行は毎年6月から10月まで続きますが、この間に、地域によっては、約80%以上のブタが感染しています。

感染者のうち100～1,000人に1人が脳炎を発症します。脳炎のほか髄膜炎や夏かぜの症状で終わる方もいます。脳炎にかかった時の死亡率は約20～40%ですが、神経の後遺症を残す人がいます。

副反応

ほとんどが接種後3日までにみられ、主なものは、発熱、せき、鼻水、はれ、紅斑、じんましん、発しんなどです。なお、その他にショック、アナフィラキシー様症状、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳症、けいれん、急性血小板減少性紫斑病などの重大な副反応がみられることがあります。